

# 教育センター研修だより



南砺市教育センター

## 教育セミナー「学級づくり研修」

下記の通り、砺波地区小中学校の教職員（南砺市は、4～10年次教職員悉皆）を対象に、学級づくり研修を実施しました。

- |       |   |
|-------|---|
| 1 日時  | 平成30年8月20日（月） 13:30～16:30   |
| 2 会場  | 井波総合文化センター エイトホール   |
| 3 講師  | 新潟薬科大学 非常勤講師 橋本 定男 先生   |
| 4 参加者 | 46名<br>・南砺市 42名（小学校教諭22名 中学校教諭20名）<br>・砺波市 3名（小学校教諭3名）<br>・小矢部市 1名（中学校教諭1名） |
| 5 内容  | 学ぶ意欲と共に生きる力を高める学級づくり  |



### 【研修会の内容】

#### 1 学級づくりと授業づくり

「授業づくり」の基盤は、「学級づくり」

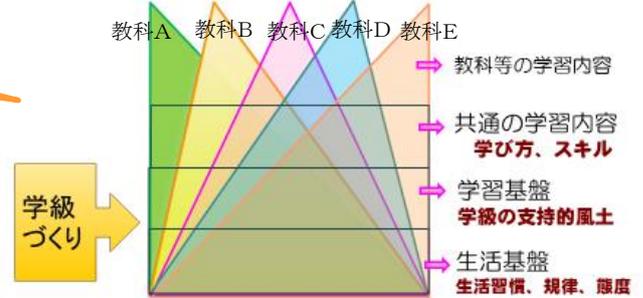
ただし、基盤づくりに弱点あり。

#### 「授業の基盤づくり」の弱点

**穏やか志向、現状維持志向**

「温かい・支持的学級集団」現状維持  
 ⇒もろい（危機に弱い）  
 ⇒たくましい集団、強い集団  
 というゴールイメージがない

#### 1 学級づくりと授業づくり



リーフレット「新潟市の授業づくり・成長を促す生徒指導より」(一部修正)

※ 参考：橋本先生作成のパワーポイント

これから、「**温かく**」「**強い**」学級をつくりましょう

#### 2 まず、ウォーミングアップとして

- 楽しい学級をつくる。（発想編）・・・特技を生かし楽しませる。例：教師が語る「怖い話」
- 自分を元気にする。（教師自身編）・・・子供とつくるドラマ・感動が教師の元気の源泉。  
 例：経営に苦しんだ学級が、一人一人にスポットライトを当てみんなで「すごいね」と認め合える場（誕生会）の継続で一気に改善。「先生の誕生会」で教師が号泣。
- 学級づくりの基本（理論編）・・・担任は子供に関わる軸足として、母性・父性両方もつことが大事である。順番は母性が先。発揮の機会が急所。

★ 母性原理：無条件受容

「そのままいいんだよ」

★ 父性原理：条件付受容

善悪・価値・目指す方向等「それでいいのか」

### 3 「いっそう温かい学級」を目指して

- まず、教師が楽しい時間をつくる。  
(子供と同じような気持ちで取り組む。) 例：フルーツバスケットで子供よりのってみせる。
- 次に、楽しい活動を子供が仕切ることができるようにする。  
(係、実行委員会等の活動を通して、互いに認め合う場をつくる。 → 一人一人の居場所づくりにつながる。)
- 適切な負荷を仕組む。

- ・楽しい活動に「適度な困難」を仕組む。
- ・**提案→話し合い→実行**の流れで解決していけるようにする。
- ・共に乗り越え楽しんだ達成感・連帯感をみんなで味わう。

**子供たちが  
教師から  
自立していく。**

### 4 「強い学級」へ挑戦

- 学級生活上の諸問題、「負」に正対する話し合いの場をもつ。

- ・「適度なトラブル」を生かす。
- ・痛み、不合理、不公平、差別に立ち止まる。
- ・**提案→話し合い→実行**の流れで解決していけるようにする。
- ・共に考え、解決した達成感・成長感をみんなで味わう。

**トラブル(いじめの芽)に強い  
学級になる。**

- 話し合い前の教師の事前の働きかけ(正義が勝つための見えざる手)が重要となる。
  - ・提案者への事前の働きかけ
  - ・支持者への事前の働きかけ
  - ・問題の共有・価値の共有の場づくり
  - ・話し合いの組織

例：<いじめ発覚の際の教師の出方について>  
教師は、本気で叱る。(どんな口調で、どんな声の大きさ、トーンで、どんな表情、態度で…)  
どうすれば、教師の本気の思いが子供に伝わるか、「語る内容、語り方」を真剣に考え、吟味してから、学級のみんなの前に立つ。  
教師の本気の姿は子供たちの心に響き、自分たちで立ち上がるようになる。

#### 負の問題を話し合うコツ

語り

ゴール、シナリオづくり

先頭集団(リーダー)組織づくり

根回し、仕掛け、見えざる手

話し合い、原案(計画案)

**強い学級への一歩は 子供を「信じること」から始まる**

#### 参加者の感想より

- ・学級でトラブルが起きると、どうしても担任で解決しようとしてきたが、子供たちが話し合いで解決できることを目指していかなければならないと強く感じた。
- ・今まで、子供たちには「先生に頼るのではなくて、自分たちで」と言ってきたが、言うだけではなく、自立していけるような負荷や支援を仕組むことが大切だと分かった。
- ・「教師が楽しむことが大切」といわれた言葉が、納得できた。「負」に強い学級づくりにも挑戦していきたい。教師にとって大切な「演技力」を少しでも意識して、演技をして子供たちを育てていきたい。
- ・私はいつも「温かい学級、居心地のよい学級」を目指していたが、常日頃それだけでは足りないと感じていた。父性の原理や母性と父性のバランス等、考え直さなければいけない点を示唆していただき、ありがたく思う。また、学級のパワーをアップさせるためにも、学級全体で取り組む活動やトラブルを生かす話し合いをしていきたい。子供をしっかりと見て、意図的な取組をしていきたい。
- ・母性と父性の話を聴いて、思わず自分のクラスを思い浮かべた。母性も父性も必要であり、順番や判断が大切だと学び、子供への接し方をもう一度考えてみようと思った。これまで、「温かい学級づくり」についての話を聴き、そのような学級を目指すことが多かった。しかし、今日、「強い学級」というキーワードを聴いて、「次のステップはこれだ」と考えを改めることができた。次は、「強い学級」を目指して子供たちに働きかけていきたい。

